



シンガポール日本語補習授業校
The Japanese Supplementary School, Singapore (JSS)

「学校だより」第10号 文責 川田

令和 7 年(2025年) 10月3日

H P で公開中 www.jss.edu.sg



後期授業開始

秋風に たなびく雲の 絶え間より 漏れ出づる月の 影のさやけさ

藤原 顕 輔

明日から後期の授業が始まります。10月編入生を加え353名でのスタートになります。明日の授業に備えて、準備等きちんとするようお声掛けをお願いいたします。

さて、文頭の短歌は平安時代後期の歌人である藤原顕輔の作品で、「秋風に吹かれて長く横に流れる雲の切れ間から、漏れてくる月の光の澄み切った美しさ」を詠んだ句です。シンガポールの地において、日本のように春夏秋冬の微妙な風情を体感させるのは相当難しいことではありますが、日本語力の向上だけでなく、国語の学習をとおして、日本人としての文化的素養も身に付けさせたいものだと思います。

後期も補習校と家庭との両輪により子どもたちにしっかりと力を付けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大盛会の運動会

前期最終日、9月20日に開催した「運動会」は、どの学年も紅白接戦となる緊迫した展開が続きました。実際、紅白の勝敗は、最後の最後まで分かりませんでした。

実は、昨年度の運動会が終わった後、中学生からこんなことを言われました。「小学生は学年ごと1ポイントなのに、中学生はどうして3学年合わせて1ポイントなのですか」・・・もっともな意見です。この質問に対し私は明確に回答することはできませんでした。なので、今年度の中学部綱引きは、「仮にどちらかが2本先取して勝敗が決まったとしても、必ず3回戦を行う。1本ごとポイント制にする。」ということにしました。昨年度は競技の合計ポイントが「7」だったのに対して、今年度は「9」になったのです。このことは、事前の練習会で子どもたちに伝えました。「今年は、小学生の部で4対2で負けていたとしても、中学部の綱引きで3本勝てば4対5で逆転することができます」と。このとき、まさかこれがいきなり実現化されるとは考えもしませんでした。ということで、今年の運動会は、中学部の綱引きで3連勝した紅組の大逆転勝利となりました。

劇的な展開だけでなく、懸命に競技する姿、他の学年を応援する声の大きさなども昨年以上に盛り上がって見えました。特に、小学生の演技を補助する中学生の姿には、来賓の方々からほほえ



まじい光景だと好評をいただくなど、吉岡運営委員長をはじめ大勢のご来賓、P A役員、ボランティアの皆様のおかげで、今年もすばらしい運動会となりました。



開会式



小1(玉入れ)



小2(大玉ころがし)



小4(ボール送り)



小3(色玉おきかえ)



小6(ボールリレー)



小5(くぐってとんで)



中学部 円陣(白組)



中学部 綱引き(紅組)